

# 令和3年度出土遺物公開事業 「らくがく縄文館」講座（第2回）

令和3年11月20日（土）午後1時30分～4時

八千代市立郷土博物館

## 演題1

### 「縄文土器の意匠」（第1章 縄文土器の美妙関連）

縄文土器には、ときにヒトやイノシシ、トリといった意匠が施されたものが見うけられます。そうした土器の型式や形はさまざまですが、土器という造形の一部でありながら「縄文人の世界観」が表現されたものの一つとも言えます。県内の資料を紹介しながら、それら意匠の造形的な側面と精神表象としての側面を見ていきたいと思えます。



## 演題2

### 「縄文土器のススとコゲ」（第2章 縄文土器のライフサイクル関連）

縄文土器は、保存容器であり、調理器具であり、食器でもありました。土器を火にかけて調理に使うと、外側には薪などの燃焼時に発生するスス（煤）が、内側には食材のコゲ（焦げ）が付着します。

ススとコゲのつき方を観察することでわかる、調理器具としての土器の使い方を解説します。

